



自分らしい生き方を選択して

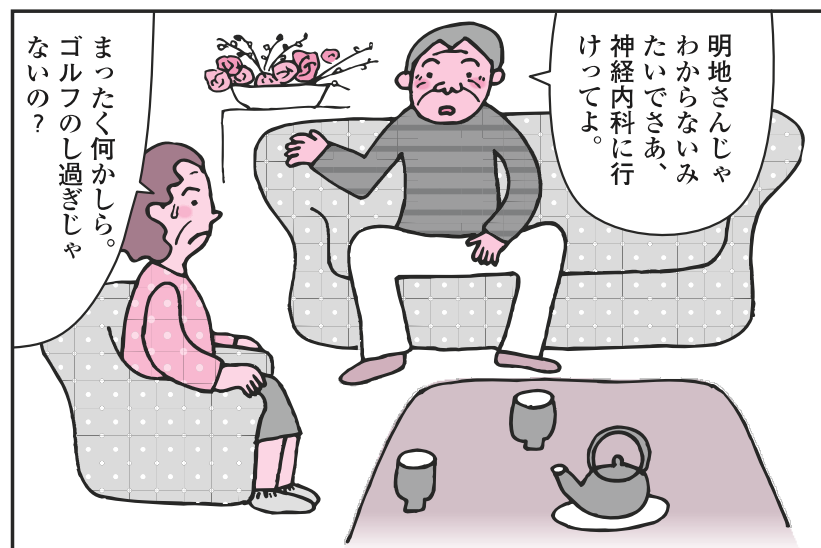
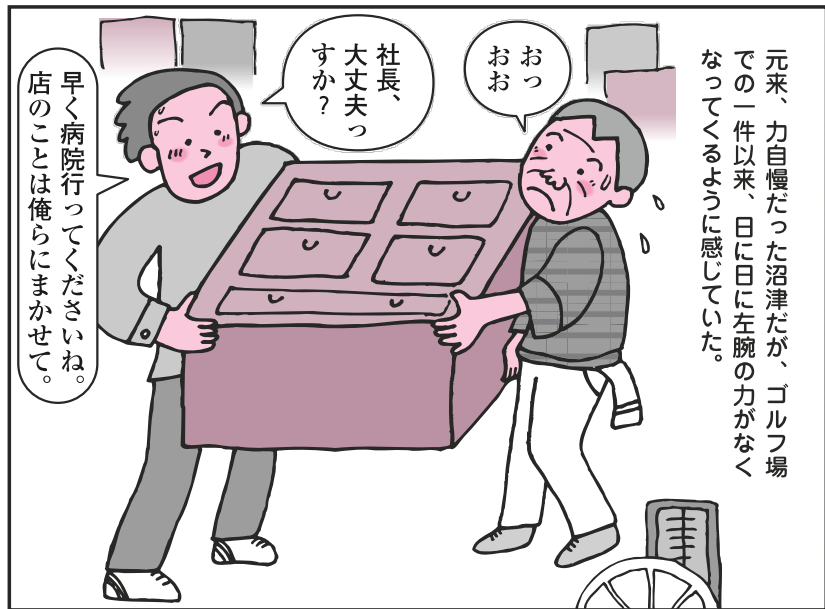
在宅医療とは？

# 神経難病の在宅医療

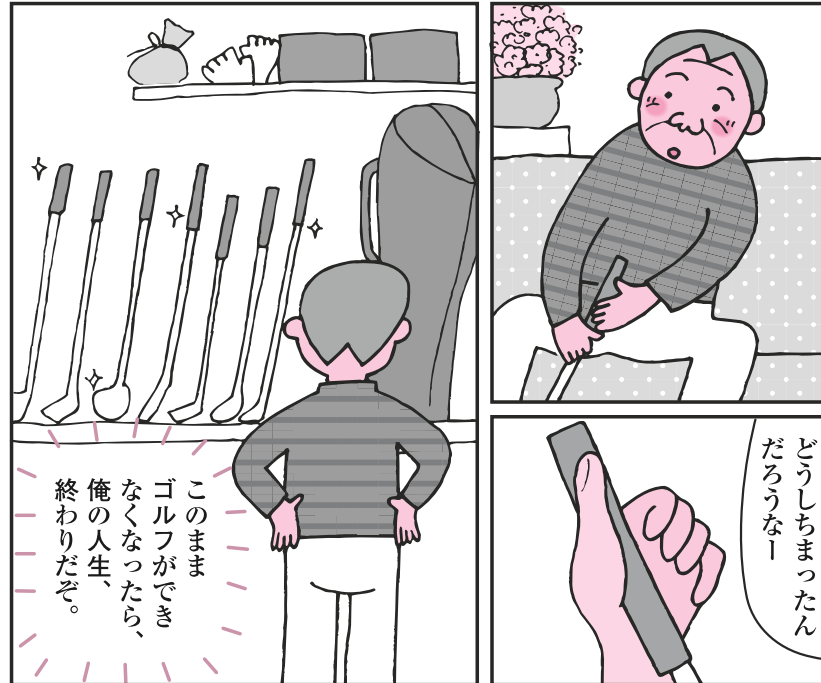
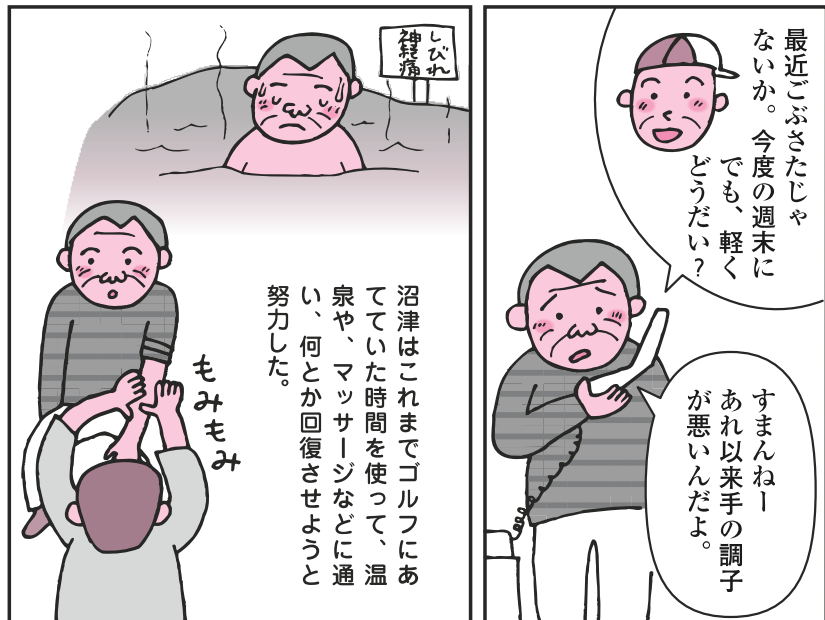


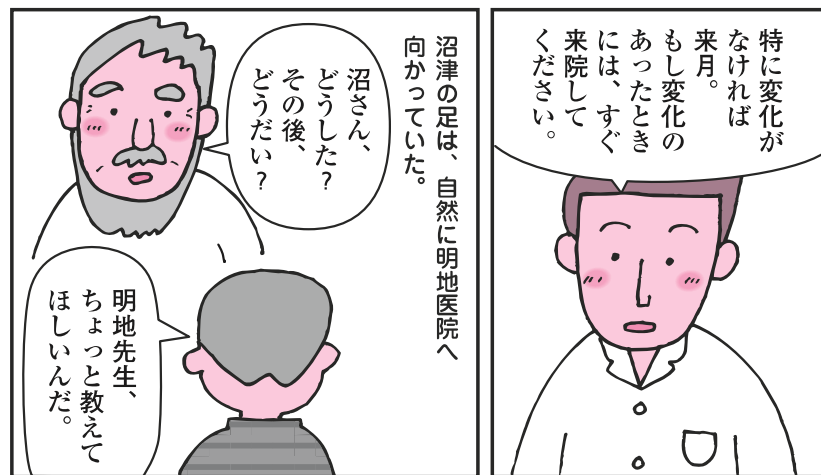
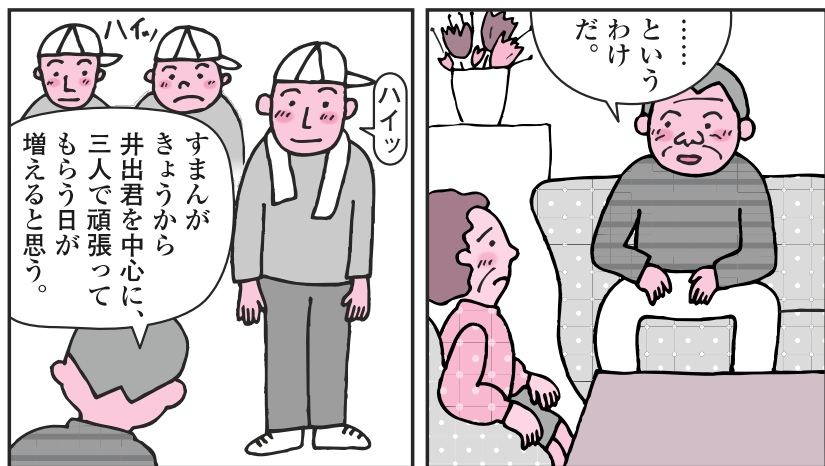
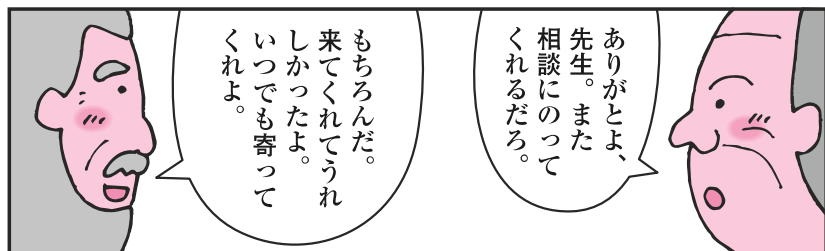
(登場する人物、医療機関、その他団体等は架空のものであり、実在のものとは関係ありません)

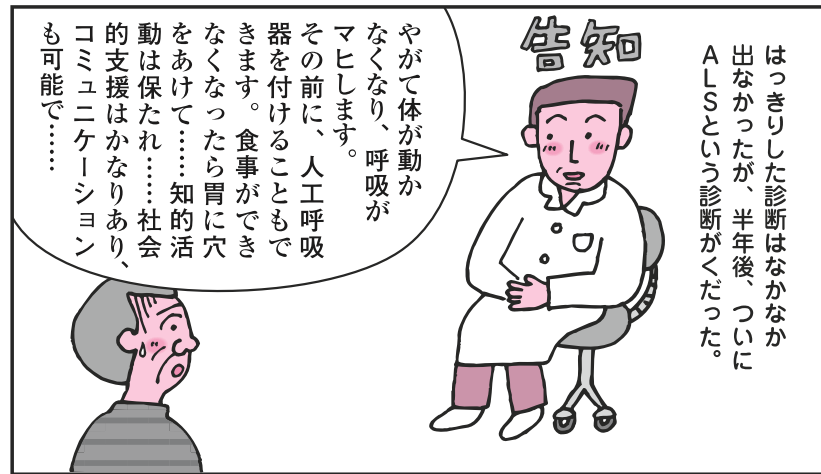
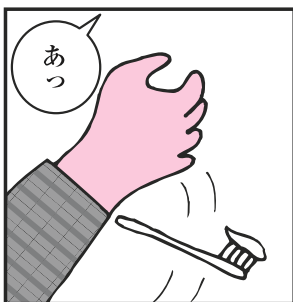
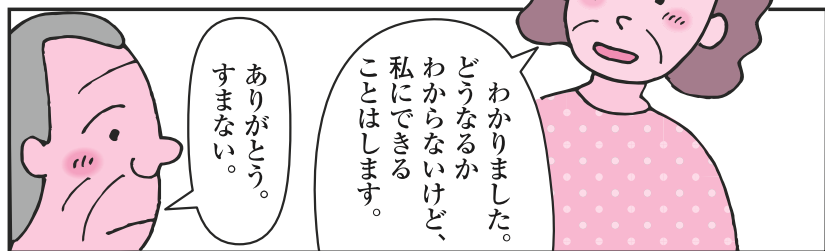




沼津は結婚三〇年になる妻の和子と二人暮らし。和子は専業主婦だったが、夫の起業を手伝い、現在は経理を担当している。三つ年上の姉さん女房だ。子どもがいなかったため、昔から二人とも趣味が生きがい。則男は、ゴルフオンリーだが、和子はお花、絵、旅行、ジョギングなど多趣味だ。

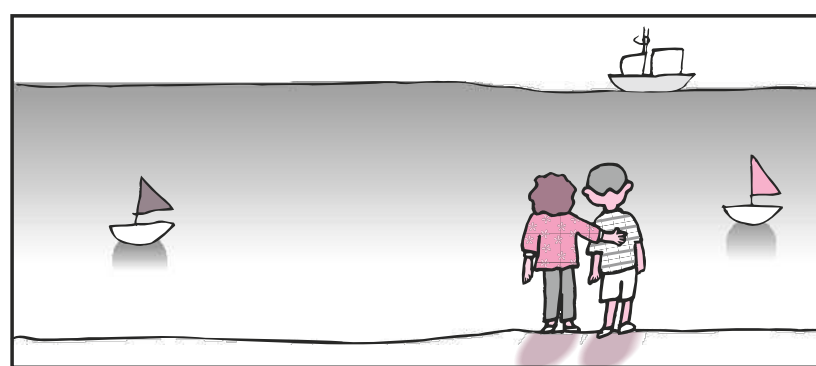
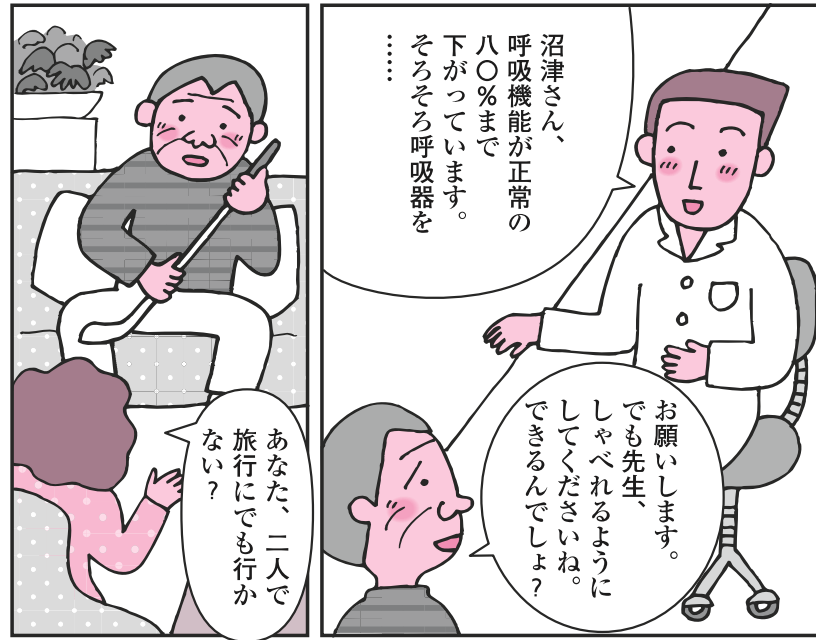
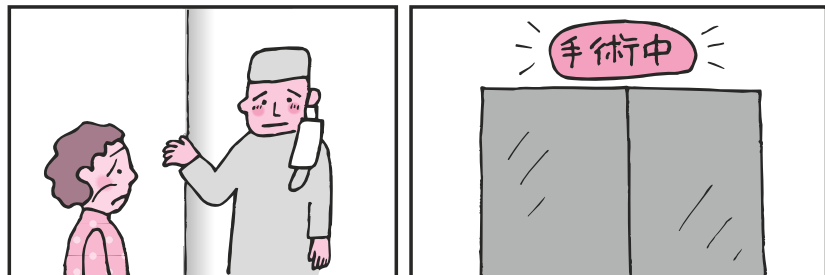
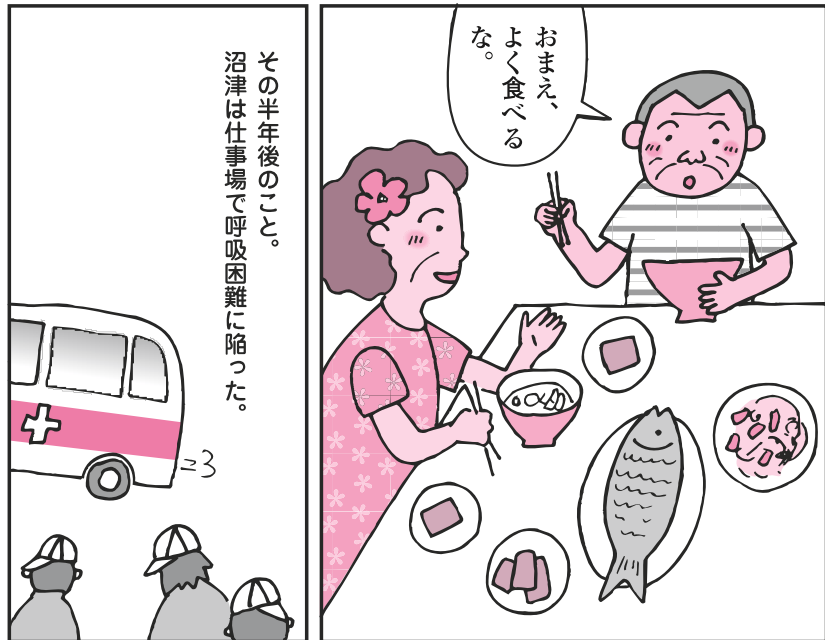


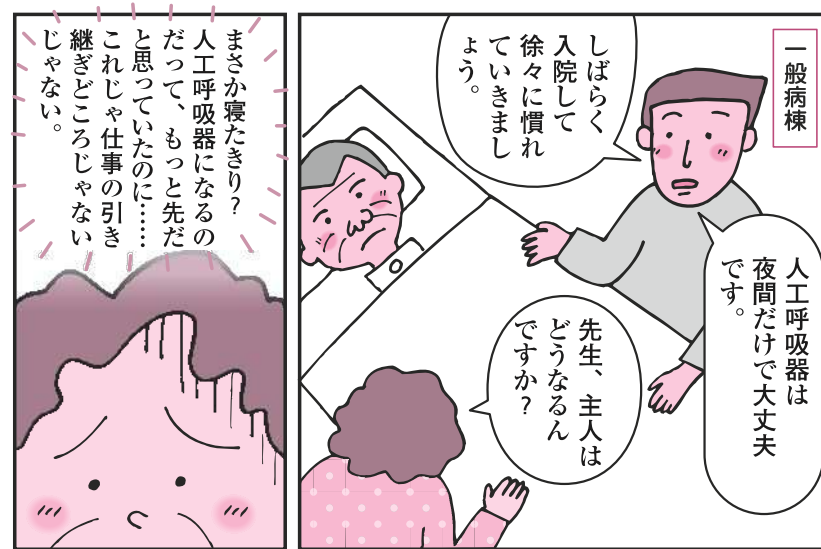
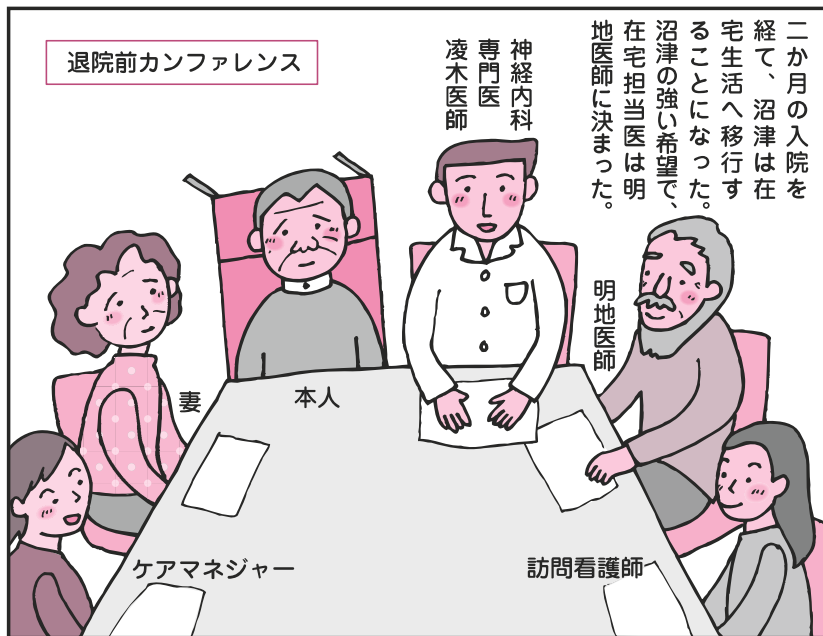
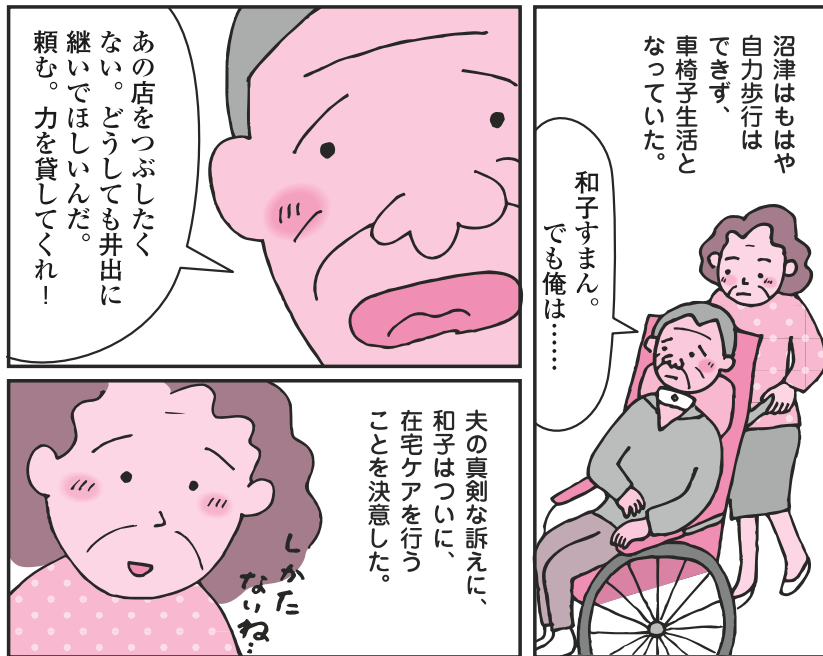




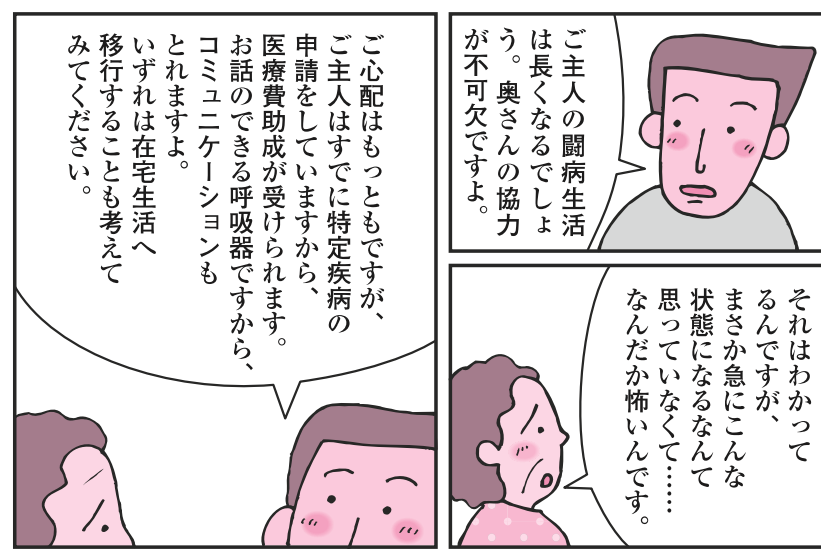
明地医師から話は聞いていたが、まさか本当にALSとは……沼津はのどとおなかに穴をあけられ、横たわる自分を想像し、絶句した。



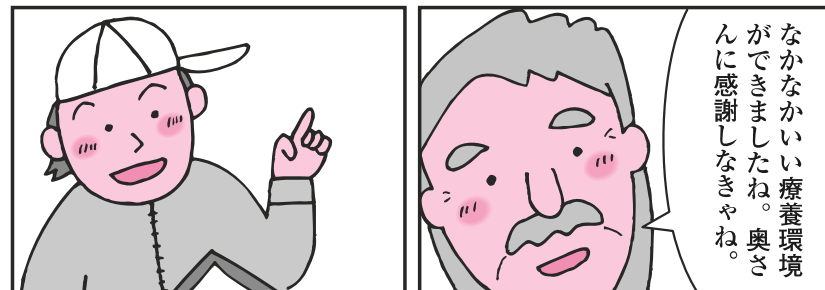
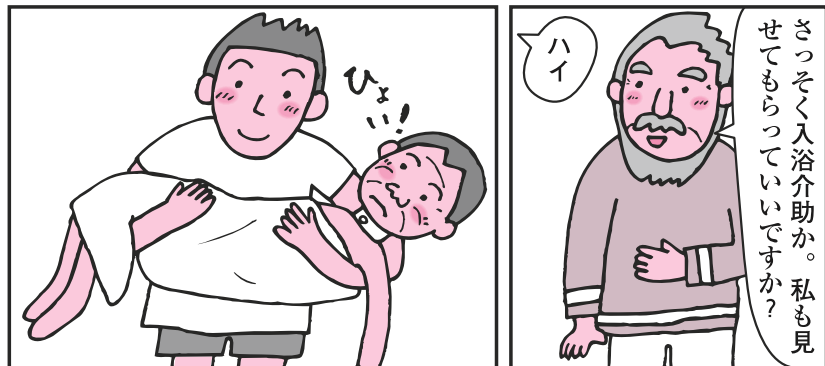
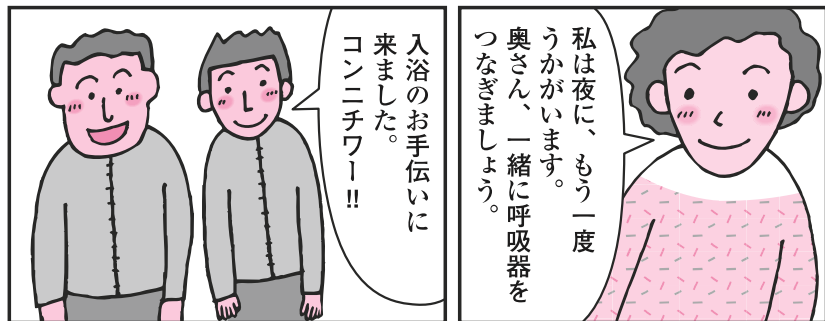


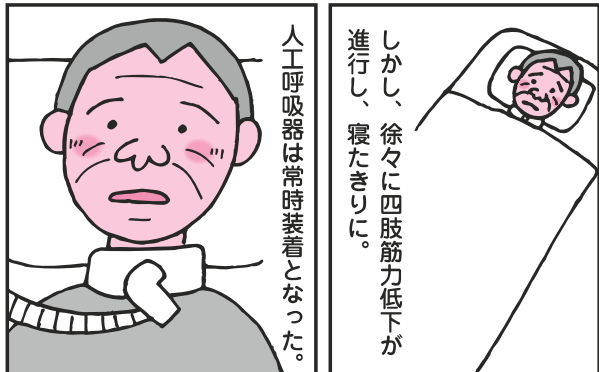


和子は別室で、凌木医師とこれからの生活について話し合った。

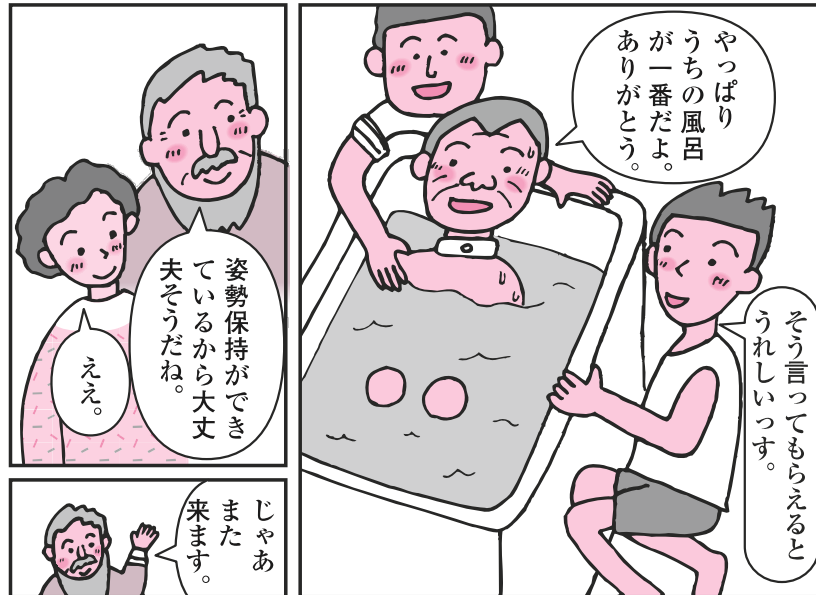
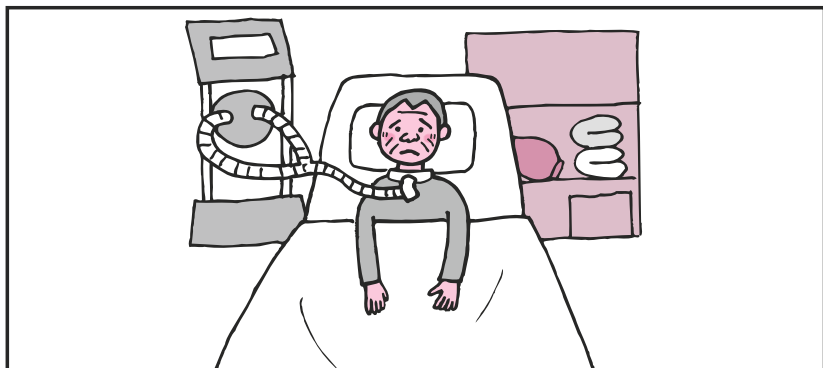


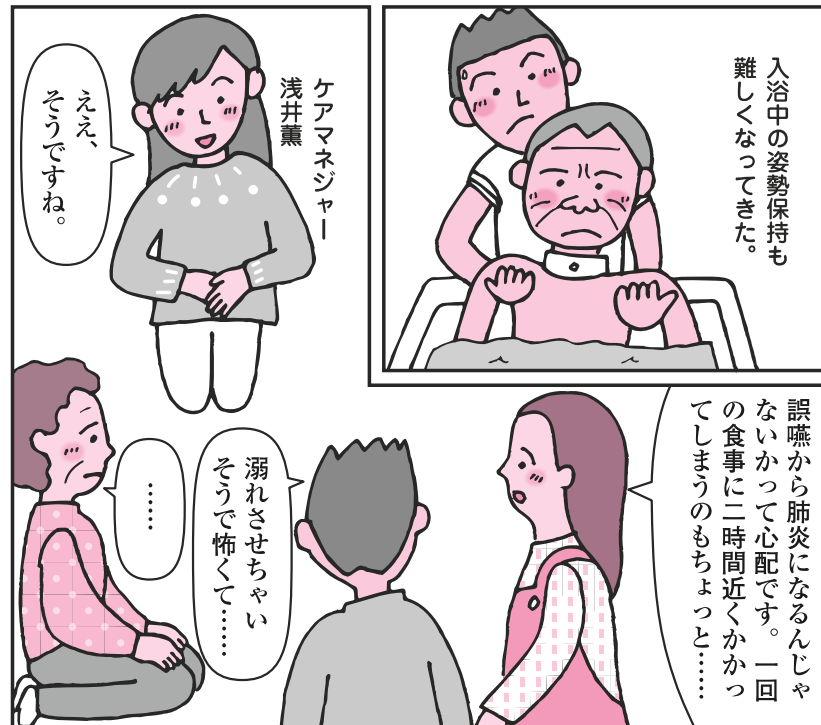
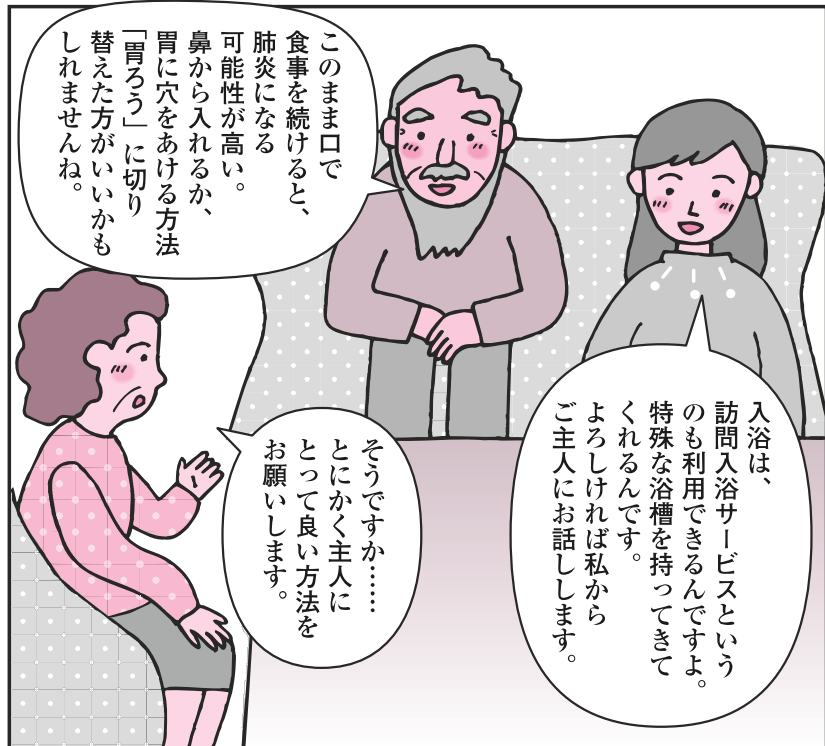


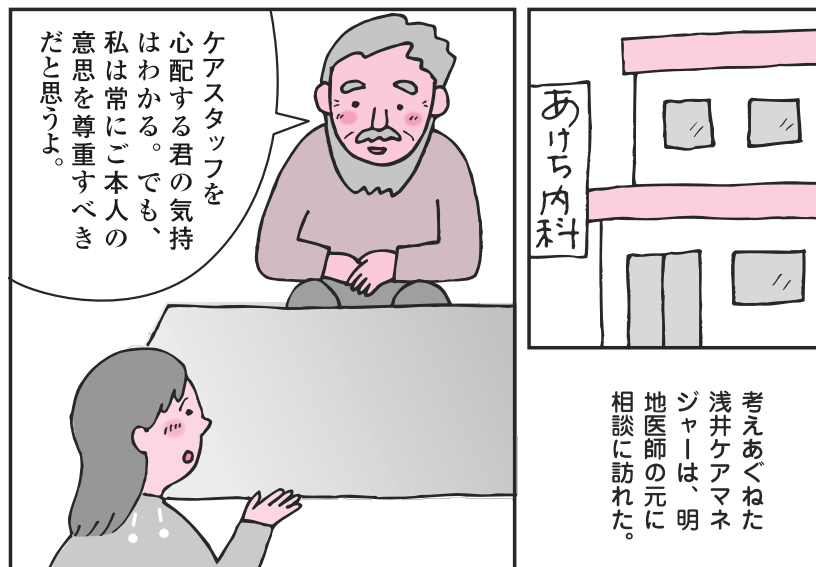
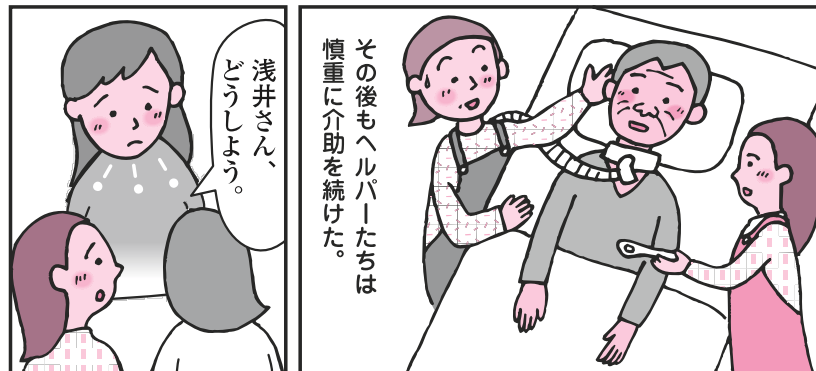
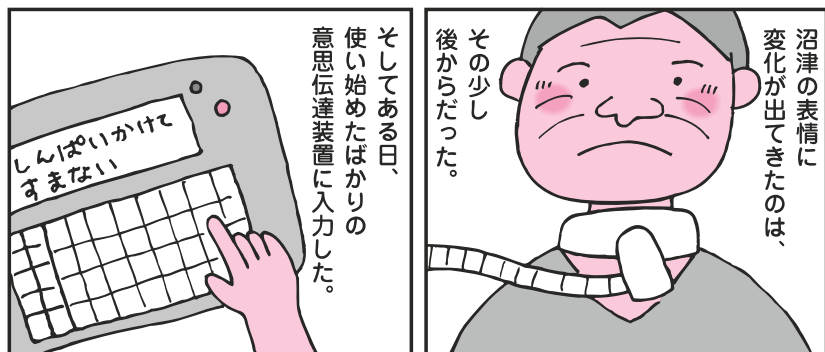


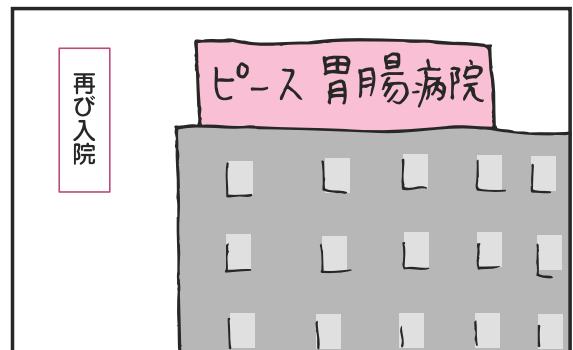


こんな生活が二年ほど続いた。









しかし、経鼻栄養を維持するための介護負担が想像以上に重く、和子が挫折してしまっ。結局、胃ろうを造設し、喉頭分離も行うことになった。

